



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)
イラン最高指導者ハメネイ ロシア亡命か！
ベネズエラ事件が引き起こす波紋

2026/01/08

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。1月3日のベネズエラ大統領拘束は、ある意味で、世界に対するリトマス紙のような役割を果たしてますよね。

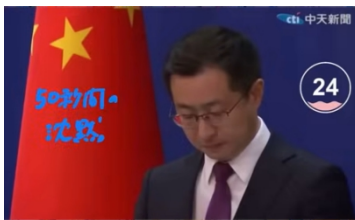
それぞれの政治的立場によって賛成・反対がパーン！真っ二つに割れている。しかし、政治的なことではなく、一般に世の中の人たちはどう思っているのか。



一般に経済の観点から見た時、どうなっているのか。
「良かった！」という意見が圧倒的なんです。それは何を見たら分かるかというとは株価です。これ、爆上がりなんですよ。
1月3日のあの大統領拘束事件で、株価爆上がり。
つまり、世界経済にとってプラスということなんです。

しかし、皆がみなそう感じているのではない。このことによって大ダメージを受けた国々は、それぞれ苦々しい思いでいっぱいなんです。

今日は、どの国がそうなっているのか、特にイランに焦点を当ててご紹介します。



あの事件について、中国外務省の恒例記者会見がありました。中国の記者の一人が外務省の報道官に、「大統領が拘束される4時間前まで、わが国中国の代表団が大統領と会っていました。この代表団は無事出国できたんでしょうか？」50秒間沈黙。50秒間黙一って。

最後どうなったと思います？何も言わんと撤退したんです。国の中が混乱しすぎて、出られなかったんです。つまり、中国はメンツ丸潰れ状態。

トランプ大統領は今年、最も多い回数の可能性として4回、習近平と会うんですが、自分のところの内庭である中南米に手を突っ込むことに対しては、断固容赦しないことをハッキリと、言葉ではなく行動で示したんです。中国は大ダメージですよ。これについては、天満橋バイブル倶楽部でお話しします。



もう1つ、ダメージを受けてる国がイランです。それを如実に表しているのが次の画像。これ笑いますよ。ある方のXの投稿です。

「マドゥ口の逮捕と国際法違反を理由に、米国を非難する声明を発表しました」

テロリストが国際法違反で批判すると。おまえ、ナニ言うてんねんと。おまえに言う資格あるんかっちゅうこと

ですよ。そして「ハマス、中共、ロシア、そして民主党があなたを非難するとき、あなたはほぼ間違いなく正しいことをしているのです」

もう皮肉たっぷりの投稿ですよ。

ハマスはなぜ、地球の裏側にあるベネズエラのマドゥロ大統領の拘束を、こんなに怒っているのか。ベネズエラのイラン大使館が、中南米におけるイスラム原理主義テロの最前線基地になっていたからです。ハマスの批判はそのままイランの代弁であって、イランは大ダメージなんですね

大ダメージどころか、今イランで深刻な問題が起こっていて、最高指導者ハメネイ師がロシアに亡命するんじゃないかという情報が流れてるんですね。

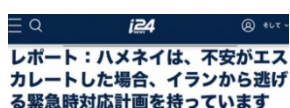
イギリスが最初に、そういうことがあり得ると言っているんですが、今日はそこを考えたいと思います。



彼がハメネイです。今 86 歳、今年 87 歳になります。

肉体の衰えは隠しようがないんですが、この数年間、イラン最高指導者ホメイニの後継者であるハメネイに、大ダメージとなることが集中的に、次から次へと襲い掛かっているんです。

「ハメネイは、不安がエスカレートした場合、イランから逃げる緊急時対応計画を持っています」これは i24 ニュースという、イスラエルのネットニュースです。



報告書によると、イランの最高指導者は、治安部隊が失敗する恐れがあるため、撤退計画を準備した

何の不安かという、クーデターの不安なんですよ。

実は今、イラン全土で現政権に対する批判や不満が爆発していて、全国でストライキやデモが行われている。

それを力でねじ伏せようとすればするほど、一向に収まる気配がなく、ますます、そのうねりが大きく広がっている。

このまま抑え切れなかったら危ない！

それで、老齢のハメネイは次男たちを連れて、おそらくロシアに逃げようとしているのではないかと。プラン B が検討されていると、イギリスの新聞が最初に報道したんです。果たして、その可能性はあるのでしょうか。

ここ数年間、ハメネイ師を非常に衰弱させるような事件が相次いでいると言いましたが、その一発目が 2020 年 1 月 3 日です。

「イラン革命防衛隊の司令官、米軍の空爆で死亡 バグダッド到着後」

イラン革命防衛隊の司令官、米軍の空爆で死亡 バグダッド到着後



この人物は、革命防衛隊コッズ部隊司令官のソレイマニです。彼は中東の地政学を一人で動かすような、すなわち、中東の様々なイスラム原理主義シーア派、ヒズボラなどのテログループを支援し、訓練し、率いて、内部で命令を下す人物でした。それが、トランプ政権がもうすぐバイデンとバトンタッチするという 2 週間前に、バグダッドでドローン攻撃で爆殺されたんです。

革命防衛隊は今のイラン体制を支えるための部隊で、憲法で国軍とは別枠で保証されている特別な部隊です。その中の特殊部隊がコッズ部隊。コッズ部隊のトップがソレイマニ。ソレイマニこそが、ハメネイが自分の用心棒にして片腕と頼む人物ですよ。彼が亡くなった時に国葬級の葬儀をやって、当時 82 歳のハメネイは涙ながらに弔辞と祈りをしました。

その数時間後すぐに、20年以上ソレイマニに付き従っていたガーニーを、革命防衛隊の次の司令官を指名します。あまりにもショックが大きかったので、それを隠すために、すぐに次の司令官を指名したんですね。

ソレイマニは30年以上にわたって、ハメネイを支えてきました。一番頼りとなる柱が、隣のイラクのバグダッドでトランプにやられてしまった。この時のショックというのはもう…。平然に見せようとして、司令官の空白期間は数時間ですぐ次だ、俺たちは全然ヘッチャラだと、わざと見せつけなければならないほど、実は大ショックだったんです。



次は2022年9月19日の日付です。クルド系イラン人のマーシャ・アミニーさんが、スカーフを着用して家族と一緒に町を歩いていた時、スカーフから髪の毛がちょっと見えてたんです。すると、イラン道徳警察が「スカーフの着け方が悪い！」とそのまま連行し、3日後の16日に、「拘置所につないでいたら、突然体調が悪くなって死んだ」と家族に言った。彼女、若いんですよ。既往症もない。持病もない。しかし、頭に殴られた跡がありました。拷問の末に殺されたと言われてます。

イランの女性たちは、スカーフの着け方が悪い云々ということで、道徳警察の下で命を落とした人たちがたくさんいる。それで、燎原の火のようにイラン国外にも広がって「ムチャクチャしすぎじゃないか！」と。イランの女性たちが立ち上がってストライキやデモをしたんですが、あっという間に鎮圧されました。



鎮圧したのはイブラヒム・ライシ大統領。あだ名は“ブッチャー”。虐殺者。どれだけ批判の声が出て来ても、あっという間に強権の力で抑え込む。ライシはハメネイ師にとって非常に重要な人物でした。ハメネイは80代半ばなので、やがて引退ですよ。次の最高指導者に指名していたのがライシなんです。

ライシがいるから、いつ死んでもイランの体制は大丈夫だと。

「イラン大統領と外相ら、ヘリ墜落で死亡と確認＝国営メディア」



2024年5月19日、ヘリコプターが墜落して、8人の政府高官や知事たちが亡くなりました。

これは、単に大統領がいなくなったというだけじゃなくて、後継者がいなくなったために、イスラム原理主義の神学界・宗教界の中に新たな権力闘争の火種ができてしまったんです。これね、コイツがいるからもう大丈夫と思っていた高齢のハメネイには、もう大ショック。それで、ガクツ

と気力が落ちるんですね。

決定的なのが、昨年6月13日金曜日から始まったライジング ライオン作戦です。

6月13日早朝、イスラエル国防軍がイランに対して大規模空爆をやったんですね。



12日間戦争とも言います。昔6日間戦争がありました。その2倍の12日間戦争で、イランのほぼほぼ全ての核開発施設を叩きのめすことができたと言うんですね。

だけど、核施設を潰しても、核兵器を造るのに必要なノウハウを持った学者がいたら、また造るかも分からないじゃないですか。



ジョージア テクという新聞に、「ライジング ライオン作戦で、少なくとも14人の核兵器開発学者が除去された」と書いてあります。建物なら、造り直したらまたやり直すことができます。でも、そのノウハウを持っている知識人・開発者・博士たち、一番重要な科学の頭脳たちがいなくなってしまうたら、金で買えないんですよ。その大ダメージを受けてしまった。

だけではなく、この時、約20人の革命防衛隊の幹部たちも除去されました。

革命防衛隊司令官のガーニーは今でも生きてます。一時期、ガーニーも死んだという一報が流れたんですけど勇み足でした。

しかし、革命防衛隊にとっても、イラン核開発者にとっても、ひいては、この2つに支えられてきたハメネイにとっても、トドメの一発になるような大ダメージを受けてしまったんです。



さらに追い打ちが掛かります。一部のニュースには出てましたが、ジェット口のニュース。「テヘランで深刻な水不足。ダム枯渇危機で水配給や避難の可能性」

イランは2023年から、大干ばつがずっと続いているんです。「イラン国立気象局は(去年)11月10日、同月7日までの降雨量が前年比83%減少し、過去40年間で前例のない水準となったと発表した。国内20州では降雨が皆無。

28のダムの貯水量が3000万立方メートルを下回っているという」

国内200のダムのうち、19がもう空っぽになっていると。



これはダムの水が下がった姿、川底です。もう谷間になって、川の部分はただの固まった泥。



これは、かつて中東最大の塩水湖だったウルミエ湖ですが、干上がってしまって、湖底がひび割れた状態です。そもそもイランは雨が少ないんですよ。降水量が少ない所って、香川県みたいに、あちこちにため池作るじゃないですか。このため池というため池が、もう空っぽ。

その結果、行方不明者の遺骨、白骨化した死体が 100 体近く上がってるんです。反政府活動などで連行され収容されて、そのまま出て来ない。というか「行方不明だからここには入ってない。知らない」って。みんな、湖や沼に投げ捨てられて死んでたんです。そういう悪事が、日照りが続くことによって全部明らかになった。

なぜそんなことになったのか。はっきり言って人災なんです。

これは AFP の情報で、赤線部分は「イスラム革命防衛隊の建設部門である」

2025年6月1日、イラン北部のアルボルズ山脈にあるカラジ川沿いのアミール・カビールダム背後の貯水池の水位低下。(AFP=時事)

イスラム革命防衛隊の建設部門であるKhatam Al-Anbeyaは、ダムや流域移転プロジェクトを通じて国土全体の公的資金を築き上げていると批判されている。

無謀な農業拡大と相まって、こうした政策はイラン全土で生態系を荒廃させ、水不足を深刻化させ、地域社会を壊滅させてきた。特にイランでも最も貧しい地域のひとつであるバロキスタンのような地域では、人口の6%が安全な飲料水を手に入れることができない。

自給自足になった農家は、しばしば違法な地下水の過剰汲み上げに手を止め、貯水層を枯渇させ、地盤沈下と許される不可逆的なプロセスによって地盤の陥没を引き起こしている。

「これは水のガバナンスの問題だ。この46年間で、この問題を引き起こしたのはこの政治体制であることが明らかになった。イランは水害のために文字通り沈没している。地盤が沈下している」

リーズ大学の調査によれば、イランの約2パーセントにあ

革命防衛隊は単に軍事部門だけではなく、経済活動もしてるんです。統計にもよりますが、一番大きな統計では、イランGDPの半分は革命防衛隊の経済活動で回ってるんです。大規模の、例えば高速道路を造ったり、ダムを造ったり、橋を架けたりする土木建築会社は革命防衛隊の持ち会社。革命防衛隊が学校も経営している。教育部門も商売の部分も半分は、石油産業までも革命防衛隊が握っている。自給自足できるんですよ。

イランは経済制裁を受けているので、国内経済でやっていけないといけな。なので、無駄に公共事業をやるんですが、予算が立てられたら、当然中抜けが始まります。革命防衛隊にケチ付けられる人は誰もいないから。建設時に必要な水は地下水を汲み上げるので、どんどん井戸水も無くなってくる。それで、一般農民が自分たちで井戸を掘るんです。そもそも地下水を貯めている帯水層が無くなってしまい、イランのあちこちでボッコンボッコン地盤沈下、地面が陥没する状態が起こってる。これは、単に雨雲が来ないということもあるけど、それだけでなく、もう人災なんですよ。一番しわ寄せを受けているのが農家の人たちなんですね。

中央日報 最新記事 ニュース オピニオン エンタメ ランキング

反政府デモの直接的な原因は通貨暴落による経済難だ。イラン貨幣(リアル)は最近1ドル=140万リアル水準まで落ちた。2015年に米国など西側と核合意(JCPOA)を妥結した当時、1ドル=3万2000リアルだったが、10年間で44分の1水準で暴落した。物価上昇率が40%を超える。イラン政府はデモ拡散を避断しながらも鎮圧の過程で民心を刺激しないように注意している。

農家の人たちだけでなく…これは中央日報です。日本のオールドメディアよりも朝鮮中央日報の方が面白い。僕はこれをずっと追いかけています。皆さんも参考になさったらいいと思います。

これに先立ちトランプ大統領はイランでのデモに関し「強硬鎮圧時に介入する準備ができている」と警告した。警告の翌日の3日、イランの同盟ベネズエラを空襲し、ニコラス・マドゥロ大統領の逮捕に踏み切った。イラン内の強硬派は「米国がイランに武力を使用する場合、中東の米軍基地を打撃する」と反発している。

「反政府デモの直接的な原因は通貨暴落による経済難だ。イラン貨幣 [リアル] は最近 1 ドル = 140 万リアル水準まで落ちた。2015 年 (10 年前) にアメリカなど西側と核合意を妥結した当時、1 ドル = 3 万 2000 リアルだったが (これもすごいねんけどね。今日本では 1 ドル 154 円くらいでしょ)、10 年間で 44 分の 1 水準で暴落した。物価上昇率が 40% を超える」

ハイパーインフレにはなる。通貨暴落によっていよいよ物価上昇してしまう。これでは、もう生活できんじゃないか！今、イラン全土で反政府デモが起こっています。大学出ても就職できない。汚職が蔓延。問題を解決するつもりはない。政府は革命防衛隊の武力に支えられている。革命防衛隊に逆らう者は誰もいない。そんな状態がずっと続いている。「もう、ええかげんにしてくれ！」

「イラン抗議デモ、中間層怒りのマグマ」



怒りのマグマが爆発して、イラン全土でデモが行われている。



これはアメリカの戦争研究所が出している1月3日午後1時にデモが行われている箇所です。



さらに、2025年12月から2026年1月、どこでデモが起こっているか。もうびっしり。テヘランはもちろん、いろんな所で問題が起こっています。

右側の記事は、「アヤトラのハメネイは、イランのプロテストの状況が悪化するならば、モスクワに脱出することを計画している」

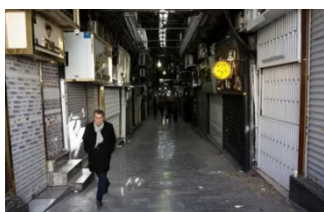
今回のデモは今までとちょっと違うんです。今までも、若者たちが怒りに任せて反対したり、女性たちが立ち上がって道徳警察の横暴に抵抗したことはありました。今回動いているのは、若者たちだけじゃないんですよ。いつの時代でも、若者たちは体制に対して不満を抱きやすいし敏感ですが、今回動いているのはバザール商人たちなんです。



バザール商人、分かりますか？中東、例えばエルサレムのヤッファゲートに入っていくと、ずっとバザール街があるじゃないですか。トルコでもイランでもエジプトでも。UAEも行ったかな。バザールはファミリー企業です。狭い小さな所で、お土産売ったり肉売ったり、様々なこと

やってるけど、単に商売やってるんじゃないで金融なんです。物流も握ってる。中東、特にイランの経済活動を担っているのはバザール商人たちなんです。彼らがストライキしたら、イラン経済はストップします。イラン経済の半分は革命防衛隊が持つてる。もう半分はバザールなんですよ。

バザール商人が動くとは何が起こるか。1979年にイラン革命が起こりました。それまでずっと政権を担っていたパーレビ政権が倒れたのは、バザール商人たちがパーレビ支持をやめて、革命側に付いたからです。それで革命がバサッと起こった。バザール商人がどちらに付くかが、この国の命運を決する一つのしるしになってるんです。今回「ええかげんにせよ！」ということで、反政府のストライキの方に入ってるんですね。



これはバザールの商店街。全部シャッター閉めてます。これでみんな困るんだけど、困ってでも、政府を動かすにはこれしかない。このまま燎原の火のように広がって行って、ストライキやデモをコントロールできなくなったら、イランは倒れます。でも、簡単には倒れない。



これは革命防衛隊です。革命防衛隊は普通の国軍じゃない。ホメイニに忠誠を誓うために結成されました。

ホメイニがパリから帰って来るまで、イランはずっとパーレビ国王が治めていました。

パーレビ国王に忠誠を誓っていた軍隊や警察は、革命政府にとっては信用できない。「こいつら、内心不満持ってるかもしれないから、自分の命を預けることなんかでけへんわ！」ということで、国軍や警察とは別に武装組織を作ったんです。それが革命防衛隊。彼らはホメイニに忠誠を誓って、あらゆることをやりました。



そのホメイニが死んで、後継者になったのがハメネイ。

ハメネイが手を上げてますね。彼を支えるための革命防衛隊ですが、革命防衛隊は大きくなり過ぎました。

今や単なる軍隊ではない。単に非合法のテロをやっている暴力装置ではない。イラン経済の半分を握る超巨大コングロマリット／企業連合体になってるんです。

自給自足できますからね。

つまり、国の中に革命防衛隊という国がある。ホメイニを支えるために結成されたので、どんなに彼らが強くなっても、ホメイニには絶対従ったと思います。

でも、ホメイニが亡くなり、カリスマ性のないハメネイにバトンタッチされ、そのハメネイには晩年不利になる事ばかりが起こり、そして今年 87 歳。

ハメネイは確かにイランの最高指導者ですが、ちょっと良いたとえか分からないけど、ナチスヒトラーの時代に一番恐れられた組織は SS／親衛隊でしょ。

親衛隊はヒトラーを支えるための親衛隊。親衛隊の下に秘密警察／ゲシュタポがあるんです。ゲシュタポは実装部隊だからみんな恐れてるけど、ゲシュタポを動かし、総括するのが親衛隊。

親衛隊を作ったのはヒムラーです。ヒムラーは優秀な官僚で、親衛隊を組織化する上で大きな働きをしました。彼自身にはカリスマ性がないんですよ。

ヒトラーに仕えるために親衛隊を作ったわけで、ヒトラーが死んだ時、この親衛隊がヒトラーに持っていた忠誠心をヒムラーにも捧げるかは、大いに疑問ですね。

ヒトラー以外のどの人物の言うことも聞かないと思います。

親衛隊も経済活動隊だったからです。

ヒトラー政権の親衛隊とイランの革命防衛隊はそっくりなんですよ。

両方とも、元祖トップだったカリスマ性のある人物を支えるために結集したもので、もしヒトラーが倒れてもナチス政権が続いていたら、この親衛隊が国家になった可能性も無きにしも非ず、と私は見てるんです。

同じように、今イランの体制が潰れたら、革命防衛隊は自分たちが持っている既得権益が全部なくなって、吊るされるわけですよ。

これから情け容赦なく、弾圧が始まっていくと思いますよ。

この先どうなるかは分かりません。一つ言えることは、世界というのは、変わる時には一瞬で変わるということです。その前に、じわじわ変わる兆しはあるんですが、多くの人々はそれを見逃しているのが、突然変わったかのように見えるんです。突然変わるだけの不満のエネルギーは、今イランの中に十分溜め込まれていて、今にも爆発しそうな状況である。

ということで、イスラエルのネタニヤフ首相は、「この状況において、イランを攻撃するつもりはない」と声明を出しました。どういうことか。今攻撃したらやれるやないかと思うかもしれませんが。これは、この状況を狙ってイスラエルが攻め込んで来るのではないかと心配した現政権が血迷って、イスラエルにまた大規模攻撃を仕掛けて来るのを事前に抑えるため、それを保証しているんです。これをプーチン経由で言ったんですよ。

世界は一瞬で変わる。2026年、世界は一瞬で変わるような兆しでいっぱいです。これはまた、ごうちゃんねるでシェアしていきますのでお付き合いください。

チャンネル登録と、いいねボタンと、フィードバックと、『世界は聖書でできている』、よろしくお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！